教職員・幼児児童生徒・保護者を応援します！

サポート

No. ２１１
令和７年１２月１１日発行
県教育庁特別支援教育課指導チーム

特別支援学校生の活躍紹介

第４５回全国障害者技能競技大会（アビリンピック）

第４５回全国障害者技能競技大会（アビリンピック）が、１０月１７日から３日間にわたり、愛知県で開催されました。全２５種目の技能競技に４０１名の選手が参加し、日頃培った技能を競い合いました。秋田県の特別支援学校からはワード・プロセッサ、ビルクリーニング、縫製、オフィスアシスタントの４競技に４名が出場しました。そして、縫製競技に出場した比内支援学校高等部３年　辻原　ゆずさんが銅賞を受賞しました。辻原さんは第４４回大会にも出場しており、その時に講評で頂いた言葉を１年間意識しながら作業学習に取り組んできたそうです。

【縫製競技「フリル付け」】

【表彰式後の記念撮影】

第２４回全国障害者スポーツ大会

第２４回全国障害者スポーツ大会「わたＳＨＩＧＡ輝く障スポ」が、１０月２５日から３日間にわたり、滋賀県で開催されました。秋田県の特別支援学校からは、陸上、卓球、バスケットボールの３競技に計１１名が出場しました。卓球競技に出場した稲川支援学校高等部３年生の佐藤　凌さんが３位、高等部生と社会人選手で構成されているＮＰＯ法人チャレンジドスポーツあきたの男子バスケットボールチームが準優勝に輝きました。

【銀メダルを胸に、やり切った表情の男子バスケットボールチーム】

【笑顔で記念撮影】

インクルーシブの風

このコーナーでは、インクルーシブ教育システムの推進の観点から、各校種等における特別支援教育に関する取組や交流及び共同学習の様子などを紹介していきます。

「通常の学級実践研修」は、通常の学級の担任による提示授業に基づく協議等を実施することにより、障害のある児童生徒に対する指導・支援などに係る実践的指導力の向上を図る研修です。今回は、大館市立有浦小学校の通常の学級実践研修を紹介します。

学校全体で取り組む特別支援教育　～大館市立有浦小学校～

第２学年　算数科　【単元名】たし算とひき算のひっ算「ひっ算のしかたを考えよう」

１　「褒める」「認める」がいっぱい！笑顔があふれる学級担任

学級担任は授業前にじゃんけんをして児童の緊張をほぐし、全員が正しい姿勢で挨拶できたことを称賛してから授業を始めました。授業中は、「いいぞ」「すごい」「よく気付いたね」などと児童の取組をたくさん褒めたり、認めたりしていました。学級担任の存在が児童に安心感をもたらしていることを感じました。

【和やかな雰囲気の学級】

２　特別支援教育支援員との連携

支援員は、既習事項を確認できるヒントカードを児童の手元に示したり、ホワイトボードを活用して問題の意図を確認したりするなど、自力解決で困っている児童に必要な支援を行っていました。学級担任と支援員は、支援員の記録や事前の打合せ等で支援内容について共有することで、児童への個別の配慮を充実させていました。

【支援員による個別の配慮】

３　全教職員参加による授業研究会

ワークショップ型の協議では、困難さのある児童の理解及び支援内容について各学年ごとに話し合い、全体で共有しました。本研修を全教職員の研修の機会として位置付け、気付きや学びを明日からの各自の指導に生かそうとしていることに感銘を受けるとともに、学校全体で力強く特別支援教育を推進する姿を頼もしく感じました。　（北教育事務所　指導主事　長崎　尚嗣）

令和７年度　キャリア教育実践研究協議会

１１月２１日（金）、秋田県総合教育センターを会場にキャリア教育実践研究協議会が開催されました。特別支援学校の実践発表は、横手支援学校が行いました。同校は、「横手が舞台」をテーマに、小学部から高等部まで、地域に根ざした教育活動を展開しています。児童生徒が家庭や学校、地域で自己の役割を発揮することで自己有用感が育まれていると発表がありました。参加者からは、「地域との関わりの中で、児童生徒が成長を実感できている」「地域資源が一覧になっていて分かりやすい」という感想が寄せられました。

【横手支援学校による実践発表】

分科会では、「児童生徒の主体的なキャリア形成につながる体験活動の在り方」について協議を行いました。グループ協議の報告からは、「毎年同じような活動を行うのではなく、児童生徒のリサーチ（実態把握）が重要である」「年間指導計画を立てる際に活動予定を埋めがちであるが、余白があることで柔軟に取り組むことにつながる」という話題が挙げられました。それぞれの校種の取組を知り、協議することで、キャリア教育について考えを深める機会となりました。

特別支援学校の特色ある取組紹介

「いーな・プロジェクト」　稲川支援学校

１０月４日（土）に行われた「全国まるごとうどんＥＸＰＯ２０２５ｉｎ秋田・湯沢」に高等部生徒が参加し、ボランティアに取り組むグループと作業学習製品の販売に取り組むグループに分かれて活動しました。

ボランティアグループは、湯沢翔北高校と稲川中学校の生徒と共に、使用したお椀などの回収やテーブルの消毒などに取り組みました。「初めは緊張してなかなか自分から声を掛けることができなかったけど、『ありがとう』と言われたら自信が出てきて、積極的に声を掛けることができた」という生徒の感想が聞かれました。来場者からの感謝の言葉が、達成感や成就感を得ることにつながりました。

【作業学習製品の販売】

作業学習製品販売グループは、会計や袋詰め、在庫管理、チラシ配り、お客さんの呼び込みと、役割が多岐にわたりました。来場者の方からたくさんお声掛けをいただいたり、作業学習製品をお買い上げいただいたりしたことで、「また販売したい」という気持ちを高めることができました。

【食事会場の清掃】

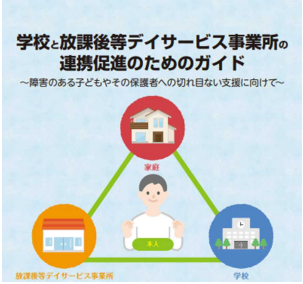
どちらのグループにも「全国まるごとうどんＥＸＰＯ」の実行委員長から謝意を頂きました。また、活動の合間には、自分の選んだうどんを堪能し、気持ちもお腹も満たされた１日になりました。

（稲川支援学校　教諭　季子　康太）

事業紹介　切れ目ない支援体制充実促進事業

令和７年度　トライアングル研修会　　９月９日（火）

本研修会は、障害のある子どもの切れ目ない支援に向けた連携体制の構築に向けて、三者（保護者、学校関係者、放課後等デイサービス事業所関係者）の連携の必要性について理解を深める目的で開催しています。今年度は、オンラインによる参加者と、オンデマンドによる参加者を合わせると、三者それぞれの立場から１７市町村６５名の参加がありました。



学校と放課後等デイサービス事業所の連携促進のためのガイド

（令和４年３月秋田県作成）

実践紹介では、昨年度の「学校と放課後等デイサービス事業所の連携促進会議」のモデル市である大館市から、教職員夏季研修会における福祉サービスの周知や放課後等デイサービス事業所による小学校の授業参観等、連携促進に向けた取組について発表していただきました。モデル市以外からは、横手市から、自立支援協議会における取組として、家庭・教育・福祉の連携体制の実現に向けた協議や校長会・教頭会での連携体制推進への協力依頼等について話題提供を頂きました。

また、今年度は参加者による情報交換の時間を設け、各地区の好事例を共有し、児童生徒への支援の充実に向けて、自分の立場でできることについて意見を交換しました。

参加者からは、「他の市町村のトライアングル体制づくりがどれくらい進んでいるか知ることができた」「情報交換では、教育・福祉と様々な立場からお話を伺うことができ、有意義であった」「目の前の子どもたちや保護者が笑顔になれるように支援体制を整備していきたい」という感想が寄せられました。